



【討論】 ジェンダー・クォータ制の 現在地

三浦麻子

大阪大学大学院人間科学研究科

このパネルに参加した経緯

- ・ 私自身は女性が比較的多い心理学業界に身を置く人間であり、また阪大人科も元来男女比はそれほどいびつではないので、自分自身が著しいジェンダーアンバランスの弊害を感じたことはありません。そのため、初めて選挙学会に出たとき「ここはダークスーツのおじさんがやたら多いな...女性は大変かも...」と驚きました。一方で、ジェンダーバランスの調整のために様々な登壇・執筆のお声がけをいただくようになった昨今、研究者としての質ではなく性別で選ばれているのではないか、と思わされることのつらさを実感しております。今回の企画も「調整」と言えばそうですが、巷間の、そして選挙学会の企画で明示的に求められている努力のいわば逆張りなので、面白いと思いました。ただし、ジェンダーの問題を自身の研究テーマとして扱ったことはまったくないです。それでもよければ、お引き受けします。

村上報告

- フランスの事例
 - 2000年 パリテ(50%クオータ)を導入
 - 世界の女性国会議員数ランキング36位 上院37.8%, 下院35.1%(2023.4)
 - 象徴的・実質的な男女間での分掌は強化されたか
- 単純に大臣在職者数や在任年数など(2012-2021)には違いがあまりないが, 性別役割分業傾向(どのクラス/威信の大臣に就くか)は続いており, 重要大臣職は男性に占められている
- 一方で, 議員レベルではジェンダー平等への変化が観察されており, 女性議員の増加にともなって, 国会で議決される政策の内容が変化している

武田報告

- イギリスの事例
 - 1993年 政党クォータ制(労働党による「女性指定選挙区」)導入
 - 世界の女性国会議員数ランキング48位 下院34.5%, 上院29.0%(2023.4)
 - 労働党の取り組みがイギリス政治をどう変えたか(変えていないか)
 - 政党クォータ制によって「資質と能力」に欠ける議員が選出されているか(いわゆる「逆差別」問題)
- 伝播効果はある程度観察されるが限定的
- 保守党での根強い反対の中心はしばしば女性議員で, その理由は「資質と能力」が, という主張
- ただし実証分析の結果はそれを否定するもの...「神話」にすぎない

馬場・リヴィ井手報告

- メキシコの事例
 - 1996年 30%クオータ推奨(非義務), 2002年 クオータ導入(義務), 2014年 パリテ導入
 - 世界の女性国会議員数ランキング4位 下院50.0%, 上院50.4%(2023.4)
 - 議会における女性のプレゼンス(象徴), 女性議員は女性の利害のために働いているか(実質)
- 女性議員増加は, 女性の利害に関する法案
 - 下院での女性のプレゼンス増加に伴い, 女性の利害に関する法案の提出数も成立数も増加している
 - 女性が関わった法案は男性のみが関わった法案より可決されやすい
 - ただし法案成立に重要な役割を果たす政治調整委員会(Jucopo)からは排除されている

村上報告

- ・フランスの事例
 - ・ 2000年 パリテ(50%クオータ)を導入
 - ・ 世界の女性国会議員数ランキング36位 上院37.8%, 下院35.1%(2023.4)
 - ・ 象徴的・実質的な男女間での分掌は強化されたか
- ・ 単純に大臣在職者数や在任年数など(2012-2021)には違いがあまりないが, 性別役割分業傾向(どのクラス/威信の大臣に就くか)は続いており, 重要大臣職は男性に占められている
- ・ 一方で, 議員レベルではジェンダー平等への変化が観察されており, 女性議員の増加にともなって, 国会で議決される政策の内容が変化している

日本選挙学会2023年度研究会 分科会F【ジェンダー部会】

制度を変えることは 時間はかかるが浸透・伝播し,

武田報告

- ・ イギリスの事例
 - ・ 1993年 政党クオータ制(労働党による「女性指定選挙区」)導入
 - ・ 世界の女性国会議員数ランキング48位 下院34.5%, 上院29.0%(2023.4)
 - ・ 労働党の取り組みがイギリス政治をどう変えたか(変えていないか)
 - ・ 政党クオータ制によって「資質と能力」に欠ける議員が選出されているか
- ・ 伝播効果はある程度観察されるが限定的
- ・ 保守党での根強い反対の中心はしばしば女性議員で, その理由は「資質と能力」問題
- ・ ただし実証分析の結果はそれを否定するもの...「神話」にすぎない

日本選挙学会2023年度研究会 分科会F【ジェンダー部会】

馬場・リヴィ井手報告

- ・ メキシコの事例
 - ・ 1996年 30%クオータ推奨(非義務), 2002年 クオータ導入(義務), 2014年 パリテ導入
 - ・ 世界の女性国会議員数ランキング4位 下院50.0%, 上院50.4%(2023.4)
 - ・ 議会における女性のプレゼンス(象徴), 女性議員は女性の利害のために働いているか(実質)
- ・ 女性議員増加は, 女性の利害に関する法案
 - ・ 下院での女性のプレゼンス増加に伴い, 女性の利害に関する法案の提出数も成立数も増加している
 - ・ 女性が関わった法案は男性のみが関わった法案より可決されやすい
 - ・ ただし法案成立に重要な役割を果たす政治調整委員会(Jucopo)からは排除されている

日本選挙学会2023年度研究会 分科会F【ジェンダー部会】

社会のあり方, 人の考え方を 変える

村上報告

- ・フランスの事例
 - ・ 2000年 パリテ(50%クオータ)を導入
 - ・ 世界の女性国会議員数ランキング36位 上院37.8%, 下院35.1%(2023.4)
 - ・ 象徴的・実質的な男女間での分掌は強化されたか
- ・ 単純に大臣在職者数や在任年数など(2012-2021)には違いがあまりないが, 性別役割分業傾向(どのクラス/威信の大臣に就くか)は続いており, 重要大臣職は男性に占められている
- ・ 一方で, 議員レベルではジェンダー平等への変化が観察されており, 女性議員の増加にともなって, 国会で議決される政策の内容が変化している

日本選挙学会2023年度研究会 分科会F【ジェンダー部会】

馬場・リヴィ井手報告

- ・メキシコの事例
 - ・ 1996年 30%クオータ推奨(非義務), 2002年 クオータ導入(義務), 2014年 パリテ導入
 - ・ 世界の女性国会議員数ランキング4位 下院50.0%, 上院50.4%(2023.4)
 - ・ 議会における女性のプレゼンス(象徴), 女性議員は女性の利害のために働いているか(実質)
- ・ 女性議員増加は, 女性の利害に関する法案
 - ・ 下院での女性のプレゼンス増加に伴い, 女性の利害に関する法案の提出数も成立数も増加している
 - ・ 女性が関わった法案は男性のみが関わった法案より可決されやすい
 - ・ ただし法案成立に重要な役割を果たす政治調整委員会(Jucopo)からは排除されている

日本選挙学会2023年度研究会 分科会F【ジェンダー部会】

社会のあり方, 人の考え方を 変えるためには,

武田報告

- ・イギリスの事例
 - ・ 1993年 政党クオータ制(労働党による「女性指定選挙区」)導入
 - ・ 世界の女性国会議員数ランキング48位 下院34.5%, 上院29.0%(2023.4)
 - ・ 労働党の取り組みがイギリス政治をどう変えたか(変えていないか)
 - ・ 政党クオータ制によって「資質と能力」に欠ける議員が選出されているか
- ・ 伝播効果はある程度観察されるが限定的
- ・ 保守党での根強い反対の中心はしばしば女性議員で, その理由は「資質と能力」問題
- ・ ただし実証分析の結果はそれを否定するもの...「神話」にすぎない

日本選挙学会2023年度研究会 分科会F【ジェンダー部会】

長期戦を覚悟して, 制度を変えることが効果的

社会心理学から見る ジェンダー・バイアスと ジェンダー・クォータ制

社会-心理学(not 社会心理-学)の基本的視座

- 人間とは社会的動物(social animal)であり, 人間と社会は互いに影響を与え合っている

$$B = f(P, E)$$

Behavior

Person

Environment

- 人間の心理(とその表象としての行動)は, 個人属性(性別など)や個人特性(性格など)だけでは決まらず, あるいはそれよりもむしろ, 状況(他者や周囲の事物, 文化などの環境)からの影響, 両者の組み合わせ(交互作用)によって決まる
- 状況(が変わること)が人間の心理や行動に及ぼす影響を重視

システム
正当化

非意識の
バイアス

対応
バイアス

現状維持
バイアス

システム正当化 system justification

- 人が、現状の社会制度やシステムを、ただそこに存在するという理由で受け入れ、また、そのシステムを維持することに動機づけられる傾向(Jost & Banaji, 1994; Jost & Hunyady, 2002)
 - 現在のような社会的な序列や役割が今この世界に実際に存在するという事実そのものが、制度的な差別の存在を妥当で自然なものだとみなす根拠になる
 - 人は、不安定で無秩序な状態を嫌うがゆえに、誰もが適材適所に配置されていると信じようとし、その結果として、自分の地位や立場も分相応なものだと考えてしまう(公正世界信念 just world belief)

システム正当化 system justification

- 現状のシステムによって不利益を被っている社会集団や下位集団に所属する人たちでさえ、システムの維持を肯定する傾向がある（e.g., Calogero & Jost, 2011; Jost & Kay, 2005; Jost et al., 2003）
- 日本人既婚者を対象に実施した調査でも、**女性ではジェンダー格差を正当化する者ほど人生満足度が高い傾向**が見いだされたが、男性ではその傾向は見られなかった（森永・平川・福留, 2020）
- ジェンダー・バイアスがあるという現状を周知しても、解消には直結しにくい

非意識のバイアス

unconscious bias

- 人は、自分の認知(人や物事の捉え方)がバイアスに満ちており、偏見を持ち、時として差別の加害者になっていることを自覚しにくい(最近職場で否が応でもやらされる研修は主にこっち)
- そればかりではなく、
システム正当化が働くことで、人は、自分が偏見の対象となったり、差別の被害者となっていることも自覚しにくいというバイアスもある。不愉快になったり、モヤモヤしたりはするかもしれないが、それを偏見や差別なのだと気づきにくい

非意識のバイアス

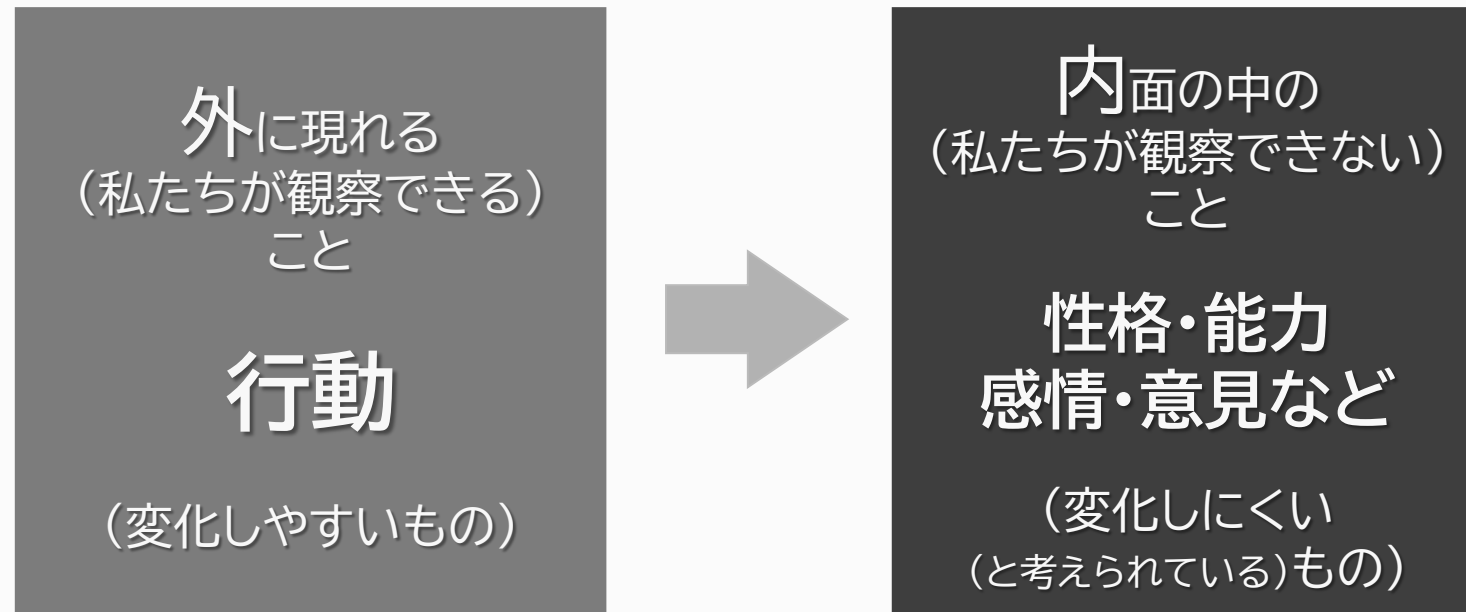
unconscious bias

- 「政治家に女性が少ない」という現実 は、現状のシステムによって作り出されているにもかかわらず、「女性は政治家に向かない」という因果に誤認されやすい
- 「政治家に男性が多い」という現実 は、現状のシステムによって作り出されているにもかかわらず、「男性は政治家に向いている」という因果に誤認されやすい
 - 「政治家」は、例えば「理系」(あるいは「選挙研究者」)などと置換可能

対応バイアス(基本的な帰属の錯誤)

correspondence bias(fundamental attribution error)

- 他者の行動の原因を考えたり社会状況を解釈したりするとき, 行為者・当事者の内面と対応づけやすく, 状況要因を軽視しやすい傾向

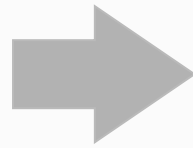


対応バイアス(基本的な帰属の錯誤)

correspondence bias(fundamental attribution error)

- 他者の行動の原因を考えたり社会状況を解釈したりするとき, 行為者・当事者の内面と対応づけやすく, 状況要因を軽視しやすい傾向

政治家には
男性が多く,
女性は少ない

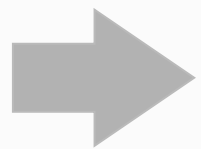


政治家適性と
性別には
関連があり,
男性の方が
向いている

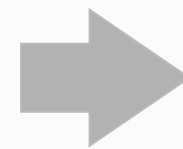
バイアスの補正 コンサバな方法

- 直観的思考をしてしまったからの気づきに期待し、気づけばそこでブレーキをかけて認知資源を使ってそれを修正することを期待する

政治家には
男性が多く、
女性は少ない



いや、それは
現状が
そうなっている
だけだ

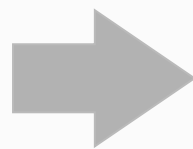


政治家への
向き不向きと
性別は
関連がない

バイアスの補正 ラディカルな方法

- ・直観的思考のデフォルトを動かすために, 状況を変える

政治家には
男性も女性も
同じくらいいる



政治家への
向き不向きと
性別は
関連がない

バイアスの補正 ラディカルな方法

- ・直観的思考のデフォルトを動かすために, 状況を変える

人は変えにくい, 状況は変えられる
状況を変えるために, 制度を作る

と, ということを各国議会のジェンダー・クォータ制導入は教えてくれている

現状維持バイアス

status quo bias

- 選択肢にメリットとデメリットが共に存在する(と思われる)時, 選択によるリスクや失敗を恐れて選択そのものを避け, 現状を維持しようとする傾向
- そもそも現状に問題があるのだから, 未来の状況で生じるかもしれない問題を気にしてもしょうがない. どんな制度にも弊害はあるので, どの弊害を重く見るかを考えるべき! ...と説得してもあまり効果がない
- +「日本人」的な特徴
 - 社会変化を受け入れる程度が低い(村山・三浦, 2021: 中国・タイ・ドイツとの国際比較)
 - ただし, いわゆる保守リベラルイデオロギーのような思想信条の枠組みで社会問題を捉えているというより, 諍いを避け安定を求めるメンタリティが強い(というのは定説ではなく, 私が現在研究進行中の仮説)
 - ということは, **変えてしまえば, それが「現状」になる**(例えば, COVID-19, 東京五輪...)

Summary

村上報告

- ・フランスの事例
 - ・ 2000年 パリテ(50%クォータ)を導入
 - ・ 世界の女性国会議員数ランキング36位 上院37.8%, 下院35.1%(2023.4)
 - ・ 象徴的・実質的な男女間での分掌は強化されたか
- ・ 単純に大臣在職者数や在任年数など[2012-2021]には違いがあまりないが、性別役割分業傾向(どのクラス/威信の大臣に就くか)は続いており、重要大臣職は男性に占められている
- ・ 一方で、議員レベルではジェンダー平等への変化が観察されており、女性議員の増加にともなうて、国会で議決される政策の内容が変化している

日本選挙学会2023年度研究会 分科会F【ジェンダー部会】

馬場・リヴィ井手報告

- ・ メキシコの事例
 - ・ 1996年 30%クォータ推奨(非義務)、2002年 クォータ導入(義務)、2014年 パリテ導入
 - ・ 世界の女性国会議員数ランキング4位 下院50.0%, 上院50.4%(2023.4)
 - ・ 議会における女性のプレゼンス(象徴)、女性議員は女性の利害のために働いているか(実質)
- ・ 女性議員増加は、女性の利害に関する法案
 - ・ 下院での女性のプレゼンス増加に伴い、女性の利害に関する法案の提出数も成立数も増加している
 - ・ 女性に関わった法案は男性のみに関わった法案より可決しやすい
 - ・ ただし法案成立に重要な役割を果たす政治調整委員会(Jucopo)からは排除されている

日本選挙学会2023年度研究会 分科会F【ジェンダー部会】

日本選挙学会2023年度研究会 分科会F【ジェンダー部会】

社会のあり方, 人の考え方を 変えるためには,

武田報告

- ・ イギリスの事例
 - ・ 1993年 政党クォータ制(労働党による「女性指定選挙区」)導入
 - ・ 世界の女性国会議員数ランキング48位 下院34.5%, 上院29.0%(2023.4)
 - ・ 労働党の取り組みがイギリス政治をどう変えたか(変えていないか)
 - ・ 政党クォータ制によって「資質と能力」に欠ける議員が選出されているか
- ・ 伝播効果はある程度観察されるが限定的
- ・ 保守党での根強い反対の中心はしばしば女性議員で、その理由は「資質と能力」問題
- ・ ただし実証分析の結果はそれを否定するもの...「神話」にすぎない

日本選挙学会2023年度研究会 分科会F【ジェンダー部会】

長期戦を覚悟して、 制度を変えることが効果的

システム
正当化

非意識の
バイアス

対応
バイアス

現状維持
バイアス

日本選挙学会2023年度研究会 分科会F【ジェンダー部会】

バイアスの補正 ラディカルな方法

- ・ 直観的思考のデフォルトを動かすために、状況を変える

人は変えにくい、状況は変えられる
状況を変えるために、制度を作る

と、いうことを各国議会のジェンダー・クォータ制導入は教えてくれている

日本選挙学会2023年度研究会 分科会F【ジェンダー部会】

現状維持バイアス status quo bias

- ・ 選択肢にメリットとデメリットが共に存在する(と思われる)時、選択によるリスクや失敗を恐れて選択そのものを避け、現状を維持しようとする傾向
- ・ そもそも現状に問題があるのだから、未来の状況で生じるかもしれない問題を気にしてもしようがない、どんな制度にも弊害はあるので、どの弊害を重く見るかを考えるべき!...と説得してもあまり効果がない
- ・ +「日本人」的な特徴
 - ・ 社会変化を受け入れる程度が低い(村山・三浦、2021:中国・タイ・ドイツとの国間比較)
 - ・ ただし、いわゆる保守リベラルイデオロギーのような思想信条の枠組みで社会問題を捉えているというより、諍いを避け安定を求めるメンタリティが強い(というのは定説ではなく、私が現在研究進行中の仮説)
 - ・ ということは、**変えてしまえば、それが「現状」になる**(例えば、COVID-19、東京五輪...)

日本選挙学会2023年度研究会 分科会F【ジェンダー部会】

おまけ

しかし、社会心理学者もバイアスから

過度の一般化バイアス？

「当事者」であるはずの自分が感じていないのだから特に深刻な問題ではない

- ・ 私自身は女性が比較的多い心理学業界に身を置く人間であり、また阪大入科も元米男女比はそれほどいびつではないので、**自分自身が著しいジェンダーアンバランスの弊害を感じたことはありません。**そのため、初めて選挙学会に出たとき「ここはダークスーツのおじさんがやたら多いな...女性は大変かも...」と驚きました。一方で、**ジェンダーバランスの調整のために**様々な登壇・執筆のお声がけをいただくようになった昨今、**研究者としての質ではなく性別で選ばれているのではないか、と思わされることのつらさを実感**しております。今回の企画も「調整」と言えばそうですが、巷間の、そして選挙学会全体で黙示的に求められている努力のいわば**逆張り**なので、**面白い**と思いました。ただし、**システム正当化による「神話」的誤信念がもたらす負の影響**は、**自身の研究テーマとして扱ったことはまったくな**い**い**です。それでもよければ

システム正当化による
「神話」的誤信念が
もたらす負の影響